

速読に対するニーズ，イメージと批判的思考の関連

People's needs and image for speed reading training: Relation to critical thinking

森田 愛子，廣澤 篤紀
Aiko Morita, Atsunori Hirose

広島大学
Hiroshima University
amorita@hiroshima-u.ac.jp

Abstract

The purpose of the present study was to investigate the people's needs and image of a speed reading training. The needs research showed that people expect to read twice as fast as present. The research also showed that the distrust of a speed reading training disturbs people's motivation for training. In addition, the critical thinking was related the image of a speed reading. We should develop a speed reading training that corresponds to these needs.

Keywords — speed reading, needs, critical thinking

問題

現代社会においては，必要な情報を効率的に取り入れることが求められている。効率化のための有効な手段の1つが速読であるが，ニーズと現状との乖離もあると考えられる。乖離の1つとして，速読というものに対する不信感がある。松田 (2005) [1] によると，速読に対して過剰な期待あるいは不信感を抱く人が多い。もう1つの乖離として，どの程度の効果を期待するかなどのニーズと効果との間にギャップがある可能性がある。そこで本研究では，社会的ニーズに合致した速読トレーニングを開発するために，森田 (2010) [2] の調査を改定し，速読トレーニングに対するイメージおよび期待する効果を調べた。それらのイメージやニーズに影響する個人差要因の1つとして，批判的思考態度との関連を調べた。

方法

参加者 大学生 162 名。

調査内容 調査は，以下の3つから構成されていた。(a) 速読トレーニングに望む効果の調査。効果とコストが比例する場合に，どのくらいの効果を望むかを記述してもらった。(b) 速読に対す

るイメージ調査。速読に関するイメージ，ニーズ，知識や経験を尋ねる 24 項目から成っていた (5 件法)。(c) 批判的思考態度尺度。平山・楠見 (2004) [3] の尺度を使用した (5 件法)。

結果

速読トレーニングに望む効果 最も望まれていた速読トレーニングは，読む速度の変化が 2 倍以下のトレーニングであった。参加者の 52% がその程度の効果を望んでいた。また，2 倍より大きく，3 倍以下の効果を望んだ参加者が 26% いた。

速読のイメージ 速読に対するイメージ調査の 5 段階評定の結果に 1-5 点を割り当て，因子分析を行った (最尤法，プロマックス回転)。その結果，Table 1 のような 3 因子を得た。各因子に含まれた項目の平均値を算出したところ，有益性の平均得点が 4.3 であり，興味および不信感の平均得点はそれぞれ 2.8, 2.9 であった (得点が高いほど因子名の傾向が強いことを表す)。

批判的思考態度尺度 批判的思考態度尺度の結果について因子分析を行った (最尤法，プロマックス回転)。Table 2 のような 4 因子を得た。平山・楠見 (2004) とは構成が異なっているところもあった。論理的思考の自覚因子や探究心因子は，平山・楠見とほぼ同一の項目から成っていたが，客観性因子のなかに“判断をくだす際は，できるだけ多くの事実や証拠を調べる”など，平山・楠見で“証拠の重視”因子に含まれていた 2 項目が加わった。また，平山・楠見で客観性因子に含まれていた“一つ二つの立場だけではなく，できるだけ多くの立場から考えようとする”などが独立した因子を構成したため，多面性因子と名づけた。

Table 1. 速読のイメージ調査の因子分析結果

項目	F1	F2	F3
有益性			
23 文章を読むのが速いと、便利だと思ふ。	.89	-.15	-.07
21 文章を読むのが速いと、将来、役立つと思ふ。	.88	-.07	-.03
24 文章を読むのが速いと、仕事や勉強に役立つと思ふ。	.83	-.10	-.04
20 文章を、もっと速く読みたいのにと考えたことがある。	.70	.18	.06
8 速読ができれば、得られる情報量がもっと増えると思ふ。	.62	.13	.00
12 文章を、もっと速く読めるようになりたい。	.51	.27	.18
興味			
19 速読に興味がある。	.05	.91	.00
14 速読トレーニングの広告が気になることがある。	-.02	.77	.14
18 今後、速読トレーニングを受けようとは思わない。	.03	-.74	.17
16 速読トレーニングは、面白そうと思ふ。	-.01	.65	-.11
不信感			
4 速読トレーニングは、非科学的な感じがする。	-.01	.15	.82
2 速読トレーニングは、効果がなさそうと思ふ。	-.09	-.02	.76
6 速読トレーニングは、効果が科学的に証明されていると思ふ。	-.16	.10	-.68
1 速読トレーニングは、あやしげな感じがする。	-.09	-.20	.56
因子間相関			
F2	.46		
F3	-.20	-.42	

Table 2. 批判的思考態度尺度の因子分析結果

項目	F1	F2	F3	F4
論理的思考の自覚				
31 公平な見方をするので、私は仲間から判断を任せられる。	.66	-.07	.08	-.13
32 誰もが納得できるような説明をすることができる。	.64	.02	.10	-.18
21 考えをまとめることが得意だ。	.61	.01	-.07	.18
27 建設的な提案をすることができる。	.58	.12	.20	-.15
26 物事を正確に考えることに自信がある。	.54	.05	.17	.05
30 何か複雑な問題を考えると、混乱してしまう。	-.48	.20	.32	-.15
28 物事を考えるとき、他の案について考える余裕がない。	-.43	-.08	.28	-.35
25 複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ。	.40	-.08	.36	.29
探究心				
20 生涯にわたり新しいことを学びつづけていたいと思ふ。	.06	.78	.06	-.11
19 新しいものにチャレンジするのが好きである。	.36	.67	-.16	-.14
13 自分とは異なった考えの人と議論するのは面白い。	-.12	.60	.00	.23
17 自分とは違う考えの人に興味を持つ。	-.12	.58	.01	.18
12 さまざまな文化について学びたいと思ふ。	.06	.57	-.22	-.07
11 いろいろな考えの人と接して多くのことを学びたい。	-.22	.51	.16	.13
客観性				
10 判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる。	-.14	-.05	.71	-.01
8 結論をくだす場合には、確たる証拠の有無にこだわる。	.07	.01	.64	-.20
33 道筋を立てて物事を考える。	.29	.00	.53	.10
7 注意深く物事を調べることができる。	.18	-.15	.44	.15
5 物事を決めるときには、客観的な態度を心がける。	.02	.09	.36	.29
多面性				
3 物事を見るときに自分の立場からしか見ない。	.02	.03	.09	-.88
1 一つ二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考	-.07	.18	.18	.53
因子間相関				
F2	-.06			
F3	.28	.08		
F4	.27	.20	.32	

批判的思考態度と速読のイメージとの相関 速読の有益性因子の得点と、批判的思考態度の論理的思考への自覚因子の得点の間に、有意な負の相関がみられた ($r = -.23$)。また、速読の有益性因子と批判的思考態度の探究心因子との間には有意な正の相関がみられた ($r = .21$)。さらに、速読の不信感因子と批判的思考態度の客観性因子との間に有意な正の相関がみられた ($r = .22$)。

考察

速読トレーニングへの期待およびの速読のイメージ まず、速読トレーニングに望む効果の結果

から、読み速度が2倍または3倍程度になるトレーニングが、最もニーズに合致すると考えられる。

速読のイメージについては、有益性を認識している人は多いといえる。ただし、必ずしも興味を感じているわけではない。不信感の平均得点が5段階評定で2.9であることから、不信感が非常に強いとも言い難いため、“有益ではあるが自分に必要ではない”と思っている人も多いのではないかと推測される。

速読のイメージと批判的思考態度との関連 探究心の強い人のほうが速読の有益性を感じているという結果は、探究心の強い人のほうが多くの情報収集を求める傾向があるためであると推測される。一方で、論理的思考の自覚が強い人のほうが速読の有益性を感じていなかった。論理的思考への自覚因子は正確さや順序立てた思考など、熟慮と関連のある項目から成っているため、この得点の高い人は、速読の有益性をあまり感じない傾向にあるのかもしれない。そして、速読に対する不信感因子については、森田 (2010) では有意な相関がみられなかったが、本研究では批判的思考態度の客観性因子との間に有意な正の相関がみられた。物事に対して客観的に、根拠のある判断をする傾向のある人は、速読に対して非科学的だといったイメージをより強く持っていることが推測される。全体的に不信感因子の得点は非常に高いと言い難いものの、少なくとも客観的に物事を判断するような人に対しては、非科学的なイメージを除去した呈示をすることで、より興味を持たれる可能性がある。

参考文献

[1] 松田真澄 (2005). 速読らくらくエクササイズ 日本実業出版社
 [2] 森田愛子 (2010). 速読に対するイメージおよびニーズ調査 日本認知心理学会第8回大会 発表論文集, 115.
 [3] 平山るみ・楠見 孝 (2004). 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響: 証拠評価と結論生成課題を用いた検討 教育心理学研究, 52, 186-198.